

身体にやさしい新しい手術法

前立腺肥大症治療のご案内

◆AMS GreenLight®HPS レーザー手術

前立腺肥大症の治療は、これまで薬による治療または内視鏡を用いた経尿道的前立腺切除術（TUR-P）が行われてきました。しかし現在では、特殊なレーザー装置を用いた低侵襲な手術療法が可能になっています。

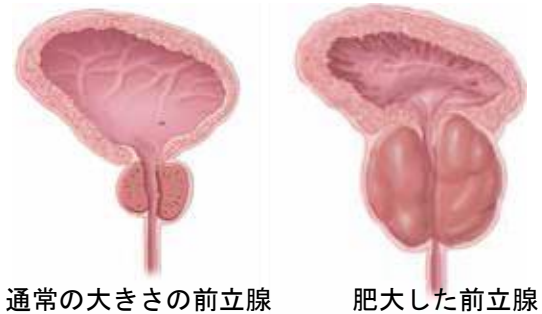
◆前立腺肥大症とは

前立腺肥大症とは良性の肥大であり、がんではありません。前立腺は通常、十代でクルミくらいの大きさまで成長します。中年期にさしかかると、前立腺が再び成長（肥大）を始めることがありますが、この理由は明らかになっていません。男性の約80%が、80歳になるまでに前立腺肥大症を発症すると言われており、その症状は多くの高齢者にみられます。

◆前立腺肥大症の症状は

肥大した前立腺は尿道を圧迫します。その結果、尿の流れが悪くなり以下のような症状を引き起こします。

- 頻尿、特に夜間（夜間頻尿）
- 尿の勢いが弱い
- 急に尿意をもよおす（尿意切迫感）
- 尿がもれる（尿失禁）
- 尿をすべて出せない（残尿）
- 排尿時にいきむ必要がある
- 排尿時に痛みを伴う



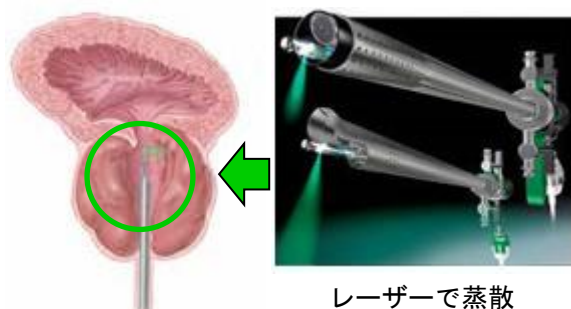
通常の前立腺

肥大した前立腺

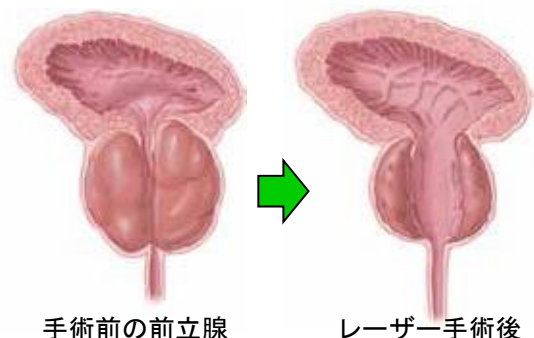
◆グリーンライト・レーザー治療とは

内視鏡を用いて尿道から細い光ファイバーを通して行う手術です。おなかを切る必要はありません。この光ファイバーから高出力レーザーを照射し、前立腺組織を蒸散させることで尿路の閉塞を取り除くという治療法です。患者さんの多くが、すぐに尿の勢いが良くなり、症状が改善されます。

グリーンライトレーザー治療は、副作用が少ないだけでなく、伝統的な手術療法である電気メスを用いた経尿道的前立腺切除術（TURP）と同等の有効性が得られます。



レーザーで蒸散



手術前の前立腺

レーザー手術後

◆グリーンライト・レーザー手術の利点

- 手術後早期に尿の勢いが改善される
- 出血や術後の痛みが少ない
- 勃起機能への影響が少ない
- 早期に尿道カテーテルが抜ける
- 脳梗塞・心臓疾患のために内服されている抗凝固剤を中止しなくてもよい
- 比較的早期に通常の生活に戻る

◆グリーンライト・レーザー手術のリスク

どんな治療法にも必ず副作用があります。グリーンライトレーザー療法も例外ではありません。よく見られる副作用は次のとおりです。

- 血尿（尿に血が混ざる）
- 尿意切迫感（尿意を我慢できない）
- 尿路の炎症（頻尿、ヒリヒリ感）
- 逆行性射精

◆治療について

- 専門医師による外来診察を行います。
- 前立腺の検査（排尿検査・腹部エコー・MRI）などを行います。
- 手術は約 60 分～120 分で終了します。
- 腰椎麻酔あるいは全身麻酔で行います。
- 入院期間は約一週間です。

◆よくある質問（FAQ）

- Q. 前立腺肥大症はがんの一種ですか？
- A. 前立腺肥大症はがんの一種ではありません。
- Q. グリーンライトレーザー手術は、性機能に影響しますか？
- A. 術前に勃起障害のない患者さんの場合は、99%を超える方に治療後手術に起因する勃起障害はみられなかったとの報告があります。
- 一方、患者さんの 30%に逆行性射精（射精の際、精液が膀胱側に流れる）を認めました。
- Q. 効果はどのくらい持続しますか？
- A. グリーンライトレーザー手術では、術後すぐに効果があらわれ、5 年間はその効果が持続されるとの臨床報告があります。



退院後、次の症状のある方は、すぐに病院に連絡してください。

- 尿に大量の血が混ざる
- 38 度を超える熱がある
- 悪寒・体がふるえる

医療法人桂会 平尾病院

〒634-0076 奈良県橿原市兵部町 6-28 TEL:0744-24-4700

<http://www.hiraohos.or.jp>